

## ステージⅢ（職務能力深化期）研修レポート

平成31年1月29日（火）に採用10年目～19年目事務職員を対象に学校組織マネジメント研修を行いました。今回のステージⅢ研修は「カリキュラム・マネジメント」をテーマに28名が参加しました。

講師には、今年度つくば市で行われた教職員等中央研修（第1回事務職員研修）を受講された、佐野市立城東中学校事務長 猿橋 清美 氏、矢板市立片岡中学校事務長 和氣 千津子 氏をお迎えしました。



今後、ミドルリーダーとして活躍していく年齢層の事務職員に対して、教育課程や教育活動に対する理解を深めるとともに、組織マネジメント能力等を発揮し、積極的に学校経営に参画する実践力を身に付けることを研修目的としています。

午前中は、カリキュラム・マネジメントの講義と、講師が勤務校での取組の実践紹介をしていただきました。講義では、「私たち事務職員も学習指導要領に強くなるべきである、私たちも学習指導要領を読むことが重要であって、教員とは見方・読み方が違ってこそ意義があり、違った見方による新しい気づきを発見することができる」、という話がありました。また、学校教育目標を実現するために学習指導要領に基づき、教育課程を編成し、それを実施・評価して改善していくことで、それに対して「教科横断的な視点」、「PDCA サイクル」、「人的・物的資源等の活用」の三つのアプローチがあることを学びました。

午前中は、カリキュラム・マネジメントの講義と、講師が勤務校での取組の実践紹介をしていただきました。

実践紹介では、和氣事務長からは、卒業証書入れを丸筒型からホルダー型に変更したいという教員からの相談に対し、予算や保護者の実態など事務職員の立場から課題解決のに向けて実践したこと、猿橋事務長からは、理科実験に必要な「アサリ」を、購入から実際に授業で使用するまでの取組を紹介していただきました。どちらの実践も教員との会話をきっかけとした内容でした。「カリキュラム・マネジメント」という言葉を、難しく感じていましたが、とても身近であり普段何気なく行っていることを、マネジメントの視点で捉え、私たち事務職員の強みである様々な資源を組み合わせ、実践、行動、評価していくことが、カリキュラム・マネジメントの入口であるということに気がきました。



午後の研修では、「とちぎの研修プログラム」のケースを基に、ケース・スタディを行いました。

事前課題で出されていたケース「ミシンが足りない」に対しての問題点をワークシートと付箋を使ってまとめました。また、問題点を「人・物・金・その他・・・」などカテゴライズすることで問題点を明らかにしました。その後、挙げられた問題点に対して、グループで討議し、解決策を話し合いました。



途中、ワールドカフェ形式で他のグループと意見交換を行うことで、新しい発見や気づきを見つけることができ、より問題点と解決策について考え深めることができました。「ミシンのボランティア受け入れ」、「教員間のコミュニケーション」、「共同実施を活用した情報収集」などワークシートが付箋で埋め尽くされるほどの解決策が挙げられ、活発なグループ討議が行われました。そこから更に、一つの問題点に焦点を絞り、具体的な解決の手立てをより深く討議しました。最後に、各グループ代表が話合った内容を発表しました。

講師からは、「学校の教育目標の実現のために個々の取組ではなく、全ての教職員が参加し組織的に取り組むことが大切である。その中で、自分の役割を探し貢献し続けていくことが、これからミドルリーダーとして、学校組織運営に関わる事務職員として、求められてくる」との話がありました。



受講者からは、「カリキュラム・マネジメント」というと難しそうだが、研修を受けて普段の業務の延長線上にあることが分かった。「教科や授業のことに対して、もっと関心をもっていきたい。」などの感想が多く挙がりました。

受講者には、自校での実践内容について後日、事後レポートとして提出していただくことになっています。各校の「努力点及び具体策の中から1項目を選び、それについて誰がどのような取組を行ったか」についてまとめます。研修で学んだことを、実践することで自分のスキルアップにつながり、これからのとちぎの学校事務を担う事務職員として、学校や共同実施など様々な場面で力を発揮していただけることと思います。